

中世の平川市 — 人・もの・情報が行き交う結節の地 —

～ 城館・地名・街道・河川・集落がつながる地域の歴史を未来へ ～

この地に残る「館」の記憶が、
平川の歴史を今に伝える

なぜ平川市には「館」のつく地名が多いのか

- 中世に地域の有力者が拠点として築いた「館」が数多く存在した
- 街道や河川など交通の要所に位置していた
- 人・もの・情報が集まる重要な地域だった
- 南部氏の津軽進出など、時代の変化の中で再編・強化された可能性がある

↓ 「館」の地名は、
中世の平川市が地域支配・交通・生産の拠点であり、
人々が集まる重要な場所だったことを示しています。

大光寺城 (イメージ)

津軽平野南部の中心的拠点として、
周辺の館や街道・河川・集落を結ぶ役割を担った
可能性があります。

※イメージ図であり、
実際とは異なります。



聖寿寺館 (南部町)



長年の発掘調査・研究により、
三戸南部氏の本城としての姿や
当時の人々の暮らし、広域的な
交流の実態が明らかになってきた。

中世の「館」とは



- 地域の武士などが暮らした場所
 - 周辺の集落や土地を収める地域支配の拠点
 - 交通・物流の拠点
 - 防御の役割
- 時代の変化とともに、防御機能が強化され、
城へと発展・再編された例もあります。

当時の人・もの・情報の流れ

街道や河川を通じて
人・もの・情報が行き交い、
館はその流れを支える拠点
だったと考えられます。



人の往来

物資の流通

情報の伝達

文化の交流

調査で見えてくる可能性

- 館の立地と河川・渡河地点の関係
- 街道 (奥大道など) との関係
- 集落・農地・寺社とのつながり
- 南部氏の津軽進出による再編の実態
- これまで知られていなかった中世の平川市の姿



今後の活用 (提案)

- 📖 平川市中世城館マップの作成 (印刷版・デジタル版)
- 📍 現地案内板・歴史散策コースの整備
- 🎓 学校教育や市民講座での活用
- 👥 観光・地域づくりへの展開

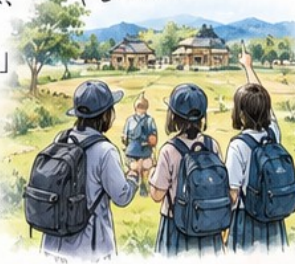
歴史を学び、歩き、体感できる
平川ならではの歴史資源へ。



地域の未来につながる

自分たちの地域の歴史を知ることは、
地域への誇りや郷土愛を育み、
「自分はこの地域につながっている」
というアイデンティティの形成にも
つながります。さらに、
定住やUターン、人口減少に
立ち向かう地域づくりにもつながる
「未来への投資」です。

このまちには
こんな歴史があったんだ



誇り・郷土愛

人を育てる

定住・Uターン

持続可能な地域づくり